

冷熱特集の発刊に際して

執行役員
冷熱事業本部長

有原正彦
Masahiko Arihara



冷熱特集の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社の冷熱事業は、家庭用のルームエアコン、オフィス・店舗用のパッケージエアコン、工場用を中心とした大型冷凍機、車輻用のカーエアコン、定温輸送のための輸送用冷凍機の5事業領域で構成されております。これらの幅広い商品群を世界中のお客様に提供する総合空調冷凍メーカーとして、環境にやさしい、快適な暮らし作りに貢献してきました。

最近の経済情勢は、欧州の財政問題、素材価格の高騰等により世界経済の先行きは依然として不透明であり、厳しい経済状況が続いておりますが、冷熱市場は新興国を中心に空調市場は回復基調にあり、地球環境保護活動の高まりから、各国においては、CO₂削減に向けた様々な施策が本格化されております。

このような中で冷熱商品のCO₂削減に担う役割は大きく、暖房・給湯分野でも、燃焼式からヒートポンプ技術を活用した電気式への転換が加速しており、高効率化による省エネニーズは年々高まっております。当社は、この分野において、従来の家庭用だけでなく、業務用、産業用の大型給湯機器を開発し、特に業務用では、当社独自の世界初のスクロタリーコンプレッサ（スクロールコンプレッサとロータリーコンプレッサを組み合わせた2段圧縮コンプレッサ）を搭載することで、外気温度がマイナス25℃でも使用可能とした新型機種を発売し、寒冷地へのヒートポンプ給湯機の普及に道を拓く戦略商品になると考えています。

車輻用カーエアコンでは、世界的な環境保護の追い風、各種税制面での政府援助もあり、小型車、電気自動車、ハイブリッド車の市場が伸長しております。当社では、新型コンプレッサ（QSコンプ）、電動カーエアコン、新型の暖房システムを主体に車輻の省エネ貢献に取り組んでまいります。

輸送冷凍機では、国内市場は近年横ばい傾向ですが、食への安全性に関する規制の高まりや食生活の高度化により定温輸送ニーズは長期的には増加傾向にあり、3Dスクロールコンプレッサを搭載した高性能な陸上レフユニットの開発に注力してまいります。

当社は“環境負荷低減”、“高効率・省エネルギー”、“利便性向上”などを追及し、世界中の社会・お客様に提供する総合空調冷凍メーカーとして、更なる新製品・新技術の開発に継続して取り組んでまいります。

本特集では、地球環境保護、省エネルギー化の推進に向けた欧州家庭用給湯機の開発、高ヘッド対応の「超高層ビル向け」マルチエアコンの開発、マルチエアコン拡販に必須なWEBゲートウェイの開発、小型・高効率な3馬力ツインロータリーコンプレッサの開発、自動車ヒートポンプシステムの開発、3室対応マルチ陸上輸送用冷凍機のユニット制御技術開発、大型ターボ冷凍機のあらたなる提案、CO₂排出量・ランニングコスト大幅削減可能なETWシリーズによる温熱技術を取り上げています。

今回の特集では、当社の代表的な冷熱製品技術の一端として前述の論文を取り上げましたが、多様化する市場ニーズに合致した開発・商品を通じて、社会が抱える諸課題の解決に努力を続けて参りますので、一層のご指導・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。